

千葉支部 会議・講演・研究会・研修会 報告用紙

(実施予定/結果報告)

報告書作成者：山田 一

名称	月例研修会	主催	日本経営士会 千葉支部
日時	平成23年6月25日(土) 15:00~17:30	場所	船橋市中央公民館
テーマ	財務諸表から学ぶ	講師	山下恭司 会員
参加者氏名：高野充昭、新見健司、中野周行、上條靖芳、中嶋清介、小塚彦明、千葉道生、鶴岡義明、林 久雄 大塚亜喜雄、藤江隆平、西村 豊、南 寛保(東京支部)、高橋弘道(南関東支部)、山田 一(講師含む16名)			

千葉支部の従来行ってきた月例研修会は、今回が最後となります。最後の月例研修会としては、私たちが顧問先と接していく上で、財務分析は第一歩ではないかという観点から税理士の資格を持っておられる山下会員に締めくくって頂くことに致しました。千葉支部では、支部会員を対象とするだけでなく開かれた講座を目指しており、今回は東京支部、南関東支部の会員の方たちにも参加して頂く研修会となりました。

山下会員は航空会社勤務の経験から航空業界の経営と照らし合わせて、具体的に分かりやすく説明され、出席された方たちは良く理解されたことと思います。講義内容は以下の項目で進めてもらいました。

1. なぜ、財務管理を学ぶのか？
2. 損益分岐点分析でみる限界利益
3. 決算書の見方
4. 収益性・安全性・生産性・成長性の理解
5. 経営分析 JAL・ANA財務分析比較

まず、最初に旅客機のcockpitの画像から、cockpitの計器類をどうコントロールして安全な飛行が出来るのかが説明されました。機長がcockpit内での操縦を如何に取り行っていくかは、経営の管理にも繋がって行くことを聞かされました。次に株式会社と会計制度の仕組みから、財務会計に関する基本的事項の説明。企業が健全な経営活動を行っていくための注意事項、又コンサルタントとしての視点で注意すべき点は何かを強調されました。要約しますと、以下のようなことでした。

- ①損益分岐点を見出す。
- ②限界利益率に注目。
- ③損益計算書から変動損益計算書にどう作り変えて行くか。

これらの説明を通して、「この会社が伸ばせる分野は何か、是正なくてはならない改善点」は何か等を見極めること。それには、自己資本比率・負債比率、流動比率・当座比率、固定比率・固定長期適合率などのデータ分析を比較することで深意を読み取る。他にも貸借対照表、損益計算書に直接表現されない部分に対処する為に、自社分析・他社分析が欠かせない旨の講義をされた。

最後に、山下会員が勤務されていた全日空と競合の日本航空の財務内容を比較した上で航空機業界の現状を分析、披露され今後拡大傾向にある格安料金の航空機会社の動向にも触れられ、今、航空業界会がどういう環境下にあるかが良く分かりました。

以上

